

ottobock.



CE

オットーボック製品 取扱説明書 (取扱販売店用テクニカルマニュアル)

**製品名：リジッド型モジュラー車いす
ベントス
(Ventus)**

品番 480A25=00000

2013年9月版

はじめにお読みください

この車いすは、ご注文時に指定いただいた仕様に沿って組み立てられています。利用者の身体状況や希望に応じて、さらに調整が必要な場合があります。この取扱説明書は、車いす「ベントス」を調整するに当たって必要な内容が記載されています。調整は、ユーザーの同意の基に行ってください。

下記の点に留意ください。

この取扱説明書（テクニカルマニュアル）は車いすの調整技術を有したスタッフ向けに作成されています。

利用者および介助者の車いすの操作方法やオプションの機能に関しては、別冊の「取扱説明書」に記載されています。

お子様や成人前の利用者に対しては、「取扱説明書」に沿って、技術スタッフまたは保護者の方が使用方法をご説明ください。

車いすを長期にわたって最適な状況でご使用いただくために、定期的なチェックをおすすめしています。特に、お子様や青少年に対しては、少なくとも6ヶ月に1回はチェックをお願いします。

追加のオプションの組付、交換に関しては、オットーボック・ジャパンにお問合せください。

本書は弊社のホームページからもPDFの形式でダウンロードできます。本書の内容に関してのご質問は、お買い上げいただいた販売店にご連絡ください。本書は更新されることがありますので、最新版をご参照お願いいたします。

目次

| | |
|---------------------------------------|------|
| はじめにお読みください | 3 頁 |
| 1 章 本製品の適用について | 6 頁 |
| 2.1 使用目的 | |
| 2.2 適応について | |
| 2.3 禁忌事項 | |
| 2.4 必要条件 | |
| 2 章 各部の名称 | 7 頁 |
| 3 章 安全にお使いいただくために | 8 頁 |
| 3.1 記号の意味 | |
| 3.2 総合的な安全に関する注意事項 | |
| 3.3 組立に際する安全事項 | |
| 3.4 ステッカーの表示について | |
| 4 章 納品時の注意 | 13 頁 |
| 4.1 納品時の状態 | |
| 4.2 オプション | |
| 4.3 収納 | |
| 5 章 取扱の前に | 14 頁 |
| 5.1 必要な工具類 | |
| 5.2 組立 | |
| 6 章 調整 | 15 頁 |
| 6.1 調整の前に | |
| 6.2 車軸位置の調整 | |
| 6.2.1 車軸の水平方向（前後）の調整 | |
| 6.2.2 車軸の上下位置と座面角度の調整 | |
| 6.2.3 車軸の左右位置（幅）調整 | |
| 6.2.4 キャンバー角度の変更 | |
| 6.2.5 車軸シャフトの角度調整 | |
| 6.2.6 車軸延長プレート使用時の調整 | |
| 6.3 キャスターの調整 | |
| 6.3.1 キャスター角度の調整（標準フォークの場合） | |
| 6.3.2 キャスター角度の調整（デザインフォーク／フロッグレグスの場合） | |
| 6.3.3 キャスター高さの調整 | |
| 6.4 ブレーキの調整 | |
| 6.5 バックサポートの調整 | |
| 6.5.1 バックサポートの高さ調整 | |
| 6.5.2 バックサポートの角度調整 | |
| 6.5.3 プッシュハンドルの調整 | |
| 6.6 バックサポートカバー／シートカバーの調整 | |
| 6.6.1 バックサポートカバーの調整 | |
| 6.6.2 シートカバーの調整 | |
| 6.7 フットサポートの調整 | |
| 6.7.1 フットサポートの高さ調整 | |
| 6.7.2 フットプレートの角度調整 | |
| 6.7.3 サイドストッパーの取付・調整 | |

| | | |
|-------|-----------------------|-----|
| 6章 | 調整 | 29頁 |
| 6.8 | サイドパネルの調整 | |
| 6.8.1 | アームサポート付サイドパネルの調整 | |
| 6.8.2 | パイプ式アームサポートの調整 | |
| 6.9 | 転倒防止装置／ティップアシストの取付・調整 | |
| 6.9.1 | アクセサリマウントの取付 | |
| 6.9.2 | 転倒防止装置の取付 | |
| 6.9.3 | 転倒防止装置の調整 | |
| 6.9.4 | ティップアシストの取付・調整 | |
| 6.10 | シートベルトの取付 | |
| 7章 | 納品時の注意点 | 32頁 |
| 7.1 | 最終確認 | |
| 7.2 | 納品時の運搬について | |
| 7.3 | 引渡し | |
| 8章 | メンテナンス / 修理 | 33頁 |
| 9章 | 購入後の取扱について | 34頁 |
| 9.1 | 廃棄 | |
| 9.2 | 再利用 / 長期間の使用について | |
| 10章 | メーカー責任およびCE整合性 | 35頁 |
| 10.1 | メーカー責任 | |
| 10.2 | CE整合性 | |

1章 本製品の適用について

1.1 使用目的

この車いすは、歩行が困難であったり、歩行ができない利用者の方が、日常生活において、屋内・屋外を自力で、または介助者によって移動するために設計されています。

この車いすは、オーダーフォームに記載されているオプションのみと使用されることを前提としています。オットーボックは、本車いすと他製品（医療機器や他社製品との併用や組付け）を保証していません。

1.2 適応について

様々な機能性とモジュラーシステムによって、この車いすは、下記のようなケースに適応することができます。

- ・麻痺（両麻痺、四肢麻痺）
- ・下肢切断
- ・下肢機能障害／変形
- ・関節拘縮／機能障害
- ・神経／筋疾患
- ・心臓・循環器系機能不全、平衡感覚障害等があり、かつ上肢による駆動が可能な方。

この車いすは、特に車いすを使用して一人で活動するユーザーを対象として設計されています。

1.3 禁忌事項

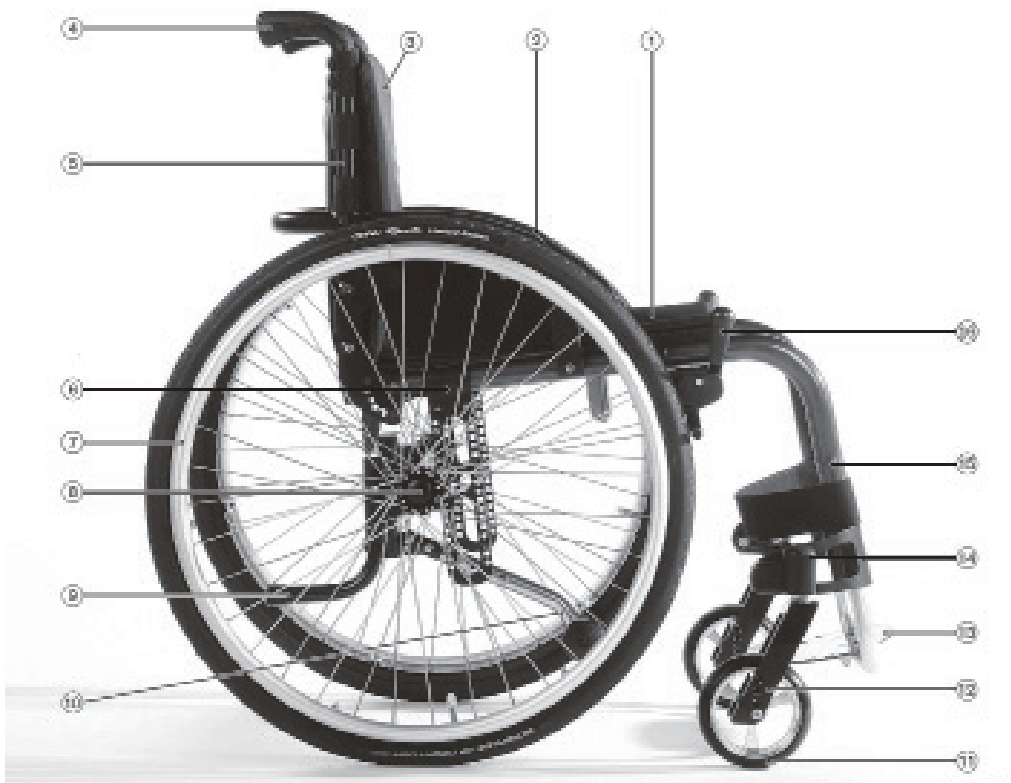
ベントスは、多数のオプションや調整機能を有しており、様々な利用者にご使用いただくことができます。適切なセッティングやオプションを選択した場合でも、この車いすの設計上、本体が後方に傾く傾向があります。この特徴は、身体能力が適応できるユーザーが、より良い車いすの操作性を得るための意図的な設計です。ユーザーの身体能力に適応しないセッティング・仕様の車いすを提供しないように心がけてください。

1.4 必要条件

この説明書に記載してある調整は、オットーボック社によるトレーニングを受けたスタッフが行ってください。

2章 各部の名称

ベントス



1. シート/シートカバー
2. サイドパネル
3. バックサポート/バックシート
4. プッシュハンドル
5. バックパイプ
6. 車軸受け
7. ハンドリム付きホイール (後輪)
8. 車軸クイックリリースボタン
9. ティップアシスト (オプション)
10. 転倒防止 (オプション、写真は収納時)
11. キャスター
12. キャスターフォーク
13. フットプレート
14. キャスター軸受け
15. フレーム
16. ブレーキ

3章 安全にお使いいただくために

3.1 記号の意味



警告

警告（重大事故のリスクがある場合）

取扱いを誤ると、「人が死亡または重症などを負う可能性が想定される」ことを警告する表示です。



注意

注意（ケガや事故のリスクがある場合）




取扱いを誤ると、「人が傷害を負う可能性、または物的損害の発生が予測される」ことを注意する表示です。




アドバイス または 注記

守っていただきたいこと、また、知っておくと便利な事項を表す表示です。


3.2 総合的な安全に関する注意事項

| | |
|--|--|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none">● 不適切なセッティング 落車、転倒、または不適切な姿勢に繋がるリスクがあります。 ⇒オットーボックによるトレーニングを受けたスタッフによりセッティングを行ってください。 ⇒車いすをユーザーに納品する前に、安全面の機能確認をしてください。● 説明不足 落車、および転倒に繋がるリスクがあります。 ⇒安全な使用方法について、納品時にユーザーに説明してください。 |
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● 不適切な工具の使用 挟み込み、破損、および車いすを傷つけるリスクがあります。 ⇒目的の調整を行うためには、作業環境に適した工具のみを使用し、安全と健康に留意して作業してください。 |
|  注記 | <ul style="list-style-type: none">● 車いすを傾けたり落としたりしないで下さい。 車いすを破損するリスクがあります。 ⇒車いすを取り扱う際に、車いすが転倒したり落下したりしないようにしてください。 ⇒作業台などで作業を行う際は、クランプ等で車いすを固定してください。● 不適切な梱包 車いすを破損するリスクがあります。 ⇒運搬の際には、オットーボックからの納品時に使用されていた箱・パッケージをご使用下さい。 |


3.2-1 車載について

| | |
|--|--|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none">● 利用者が車いすに乗ったままで車載を行う場合は、車いす固定ベルトや固定装置などを必ずご使用ください。車載する車種により固定の方法が異なる場合がありますので、車載につきましてはドライバーおよび専門の方に相談ください。また、車いすに固定ベルトなどを付ける場合、フットサポートなど取外し機能のある部分には取付けないでください。ベルトが外れて思わぬ事故につながる恐れがあります。また、必要に応じて車載用のアンカーポイントキットなどを別途お求めください。ペントスは、利用者が乗ったままでの車載には適していません。 |
|--|--|


3.2-2 不整地や障害物がある場所、および介助に関する危険


| | |
|--|---|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none">● 介助なしでの転倒の危険 階段では必ず介助を受けてください。スロープやエレベーターなどの設備がある場合、それらの設備を使用してください。そのような設備が無い場合には、介助者二人が持ち上げて階段を昇降したり、大きな段差などを乗り越えてください。利用者が一人で階段を昇降したり、大きな段差などを乗り越える場合、転落や転倒など重大な事故につながるおそれがあります。● 車いすの勝手な走り出しによる傷害の危険 平らな場所および平らでない場所での、乗り移り（例えば車へなど）の際には必ずブレーキをかけ、車いすを固定してください。車いすを使用していない場合でも必ず車いすのブレーキをかけてください。屋外などでは、路面状況や強い風により、車いすが動き、予期せぬ事故につながるおそれがあります。● 間違った持ち上げ方による転倒の危険 介助者は、車いすを持ち上げる際、フレーム本体の固定された部分のみ（例えば、座面下の側面フレームなど）を掴んでください。フットプレートや、後輪などは持たないでください。外れて車いすを落とすなど、重大な事故につながる恐れがあります。また、高さ調整付プッシュハンドルの場合、そのハンドルのレバーがしっかり締められていることを確認してください。● 転倒防止装置の調整ミスによる転倒の危険 階段を昇降する場合、転倒防止装置が階段に引っかかるなどし、重大な転倒事故などが起こる可能性があります。昇降前に、転倒防止装置が階段に接触しないように収納してください。昇降後、転倒防止装置を再び正しい位置に戻してください。● リフト使用の際の転倒の危険 リフトを使用して利用者を車いすに乗せる場合、リフトの下で車いすを傾けた時に、転倒防止装置が移乗動作の邪魔にならない区域にあることを確認してください。引っかかる、もしくは車いすの傾斜が充分に取れない場合など、直接および間接的な事故につながる恐れがあります。● キャスターや後輪による危険 踏切や溝などのある所ではキャスター等が溝にはまり、予期せず車いすが動かなくなり重大な事故につながる恐れがあります。不整地や溝がある所では十分に注意し、踏切等を通る際には、時間に余裕を持って行動してください。● 坂道や駅のプラットフォーム等での危険 坂道の途中で停止する際は必ずハンドブレーキまたは介助ブレーキをかけてください。また、道路や駅のプラットフォームなどは平らに見えても勾配がありますので、停止される際は必ずブレーキをかけてください。急に車いすが動きだし、転落や転倒などにより死亡や重大な事故につながる恐れがあります。また、プラットフォームや信号待ちなどの際には、介助者は利用者からできるかぎり目を離さないようにし、ブレーキがかかっていることを確認してください。● 介助者が車いすを離れる際の安全確保 介助者が利用者を乗せた車いすから離れる場合は周囲の安全を確認し、必要であればブレーキをかけてから離れてください。特に屋外では安全な場所まで移動し、必ずブレーキをかけてから移動してください。 |
|--|---|


3. 2- 3 乗車・降車に際しての危険

| | |
|---|---|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● 足台に体重をかけての乗車による傷害の危険 乗車、降車の際には必ず駐車ブレーキをかけてください。可能な限り、車いすの横から移乗してください。フットプレート上に体重をかけて移乗すると、車いす本体が傾き、転倒するおそれがあります。 |
|---|---|


3. 2- 4 走行に際しての危険


| | |
|---|--|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none">● 皮膚の状態が正常でない場合の合併症の危険 皮膚の状態が正常でない場合、もしくは、免疫力が極端に低下している場合などに車いすを使用すると、皮膚が赤くなったり褥創などを起こす可能性があります。臀部、背や大腿の裏側など、部分的に長時間負荷のかかる部位の皮膚の状態は、車いす使用の前に特に入念にチェックしてください。医療的傷害、または身体状況に関連して発生した健康上の被害については、賠償義務を負いません。● 車いすで段差を乗越える際および不整地などでの危険 段差のある場所や不整地では、障害物などにより予期せず車いすが前のめりに傾き、車いすから転落する恐れがありますので注意してください。 |
|---|--|

| | |
|---|--|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● 未経験者の事故の危険 車いすを初めてお使いになる利用者は、まず初めに平らな、見通しの良い場所で車いすの取扱いを練習してください。傾斜のある道、上り坂、全ての勾配、または障害の乗越えなどについては、必ず介助者の補助のもとで車いすの操作方法を確認してください。車いすの取扱いに慣れていない場合、転倒やその他の危険な状況をもたらす恐れがあります。初めての利用者は、車いすに転倒防止装置をつけて使われることをお勧めします。● 重心の延長による転倒、もしくは後転の危険 (車いすの前方、側方、後方にある) 物を取る時には、車いすよりあまり過度に身を乗り出さないようにしてください。重心のバランスが崩れ、転倒するなどの恐れがあります。車いす上で前傾姿勢を取る必要がある場合は、キャストが前にできるように車いすを少し後方に移動させ、車いすを安定させてください。● 障害(段差や縁石)の乗越えの際の転倒の危険 車いすを減速しないまま縁石を乗り越えたり、段差から飛び降りたりすると、利用者の事故だけでなく、周りにいる人の事故や物の破損などにつながる恐れがありますので、絶対に避けてください。また、公道を走行する際には、車いす利用者としての交通ルールに従ってください。障害(段差や縁石)の乗越え、スロープを上る際には上半身を前方に傾けるか、介助者が後ろから車いすをサポートしてください。障害(段差や縁石)の乗越える際にはキャストを上げて障害物に対して正面から乗り越えてください。● 固定ブレーキの誤使用による傷害の危険 タイヤに接触するブレーキは、固定用ブレーキとして設計されています。固定用ブレーキは、走行中のブレーキとして使用しないでください。車いすの急ブレーキは転倒を引き起こす恐れがあります。● 暗闇の中での走行による傷害の危険 暗闇の中では、車や歩行人の目に付きやすいように、明るい服または反射板の付いた服を着るようにしてください。車いすの側方や後方などのよく見える部分に、適切な反射板を取付けてください。照明装置(照明用ライト)を取付けることもお勧めします。● 坂道での転倒の危険 坂道では、減速して走行してください。スピードが出すぎることによって転倒などの事故につながります。● 不意の後輪脱落による転倒の危険 後輪のクイックリリース軸が常にしっかりと取付けられているか確認してください。クイックリリース軸のボタンが押されていない状態で後輪を取外さないでください。 |
|---|--|


| | |
|---|---|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none"> ● 過低圧・過高圧のタイヤによる事故の危険 ブレーキの利きや全体としての走行状態は、タイヤの空気圧に依存し、十分な空気圧と適切な調整によってのみブレーキが正しく働きます。走行前に、タイヤを正しい空気圧にするように気をつけてください。適正な空気圧はタイヤに印刷されています。高圧タイヤの場合は7気圧(700kPa)、標準タイヤの場合3.5気圧(350kPa)を維持してください。また、左右の後輪が均等に適正な空気圧になることで、軽くそして快適に操縦することができますようになります。 |
|---|---|

3.2-5 火・熱または過冷却による危険


| | |
|---|---|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none"> ● 極度の気温での注意 車いすは直射日光の当たる場所やサウナの中などでは、非常に高温になることがあります。また、極度の低温では過冷却の危険があります。その様な条件下でフレームなどに接触した場合、重大な身体的事故につながる恐れがあります。 |
|---|---|


| | |
|---|--|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none"> ● 火の取扱いにおける火傷の危険 座面と背もたれのカバー素材は、引火することがあります。あらゆる火の元、特にタバコの火には気をつけてください。 |
|---|--|

3.2-6 手の負傷の危険


| | |
|---|---|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none"> ● 手の負傷の危険 車いすを操作する際には、車輪とブレーキの間に手をはさまないように注意してください。後輪スポークを掴んだり、手を入れないでください。また、手や指を、車いすのブレーキレバー、サイドパネル、フレームなどの部位にはさむ危険があります。車いすの折りたたみの際には、手や指のはさみ込みに充分ご注意ください。 ● 摩擦による火傷の危険 特に軽金属のハンドリムを使用している場合、高速で走行している際や長い坂を下っている際にブレーキをかけた時、摩擦により指などが熱く感じられることがあります。屋外での走行には、指を火傷や汚れから守る皮手袋等を使用して、しっかりとグリップを保つようにしてください。 |
|---|---|

3.2-7 車いすの破損についての注意

| | |
|---|---|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none"> ● 磨耗による損傷 車いすの座面や背面は、摩擦により擦り切れる可能性があります。破れや磨耗などに気がついた場合は、安全のためすぐに交換するようにしてください。 ● バックサポート折りたたみ時の取扱い バックサポートを折りたたんだ状態の車いすの上には重いものを絶対に置かないで下さい。フレームなどの変形や、車いすを正しく開くことができなくなる可能性があります。 ● 海水や砂地などでの取扱い 車いすを塩水（海など）の中で使用しないでください。また、車輪のベアリングを破損する可能性がありますので、砂やその他の埃をできるだけ避けてください。 |
|---|---|

| | |
|--|---|
|  アドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ● 重量超過による破損 ベンタスの最大耐荷重は100kgです。大量の手荷物などがある場合にはご注意ください。また、ご自身の体重を常にチェックされることをお勧めします。オプションや取付けられた部品も荷重に含まれますのでご注意ください。 |
|--|---|

3.3 組立に際する安全事項

| | |
|---|--|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● 車軸ブラケットの不適切な取り付け ブラケットのゆるみによる車軸位置の予期せぬ移動で、落車または転倒のリスクがあります。 ⇒調整等が終了するたびに、車軸ブラケットが適切に取り付けられていることを確認してください。 また、車軸がブラケットに完全に挿入されていることを確認してください。 ● 車軸・キャスター位置の変更、および車軸・キャスターのサイズ変更 落車または転倒のリスクがあります。 ⇒車軸・キャスター位置の変更、および車軸・キャスターのサイズ変更を行った場合、走行時にフロントキャスターがブレる可能性があります。このような変更を行った後は、キャスターの角度調整を必ず行ってください。（車軸位置調整、およびキャスター角調整の項目をご参照ください。） ● 転倒防止装置の不適切な設定／転倒防止装置の未装着 車いすおよびユーザーが後方へ転倒するリスクがあります。 ⇒転倒防止装置が正しく取り付けられ、適切に設定されていることを確認してください。 ⇒車いすの設定、車いすの重心、およびユーザーの経験に応じて、転倒防止装置が必要となります。 |
|---|--|

3.4 ステッカーの表示について

車いす本体のクロスブレース前面に、タイププレート（ステッカー）が貼り付けられています。タイププレートには、下記の情報が記載されています。

- A：機種名
- B：製品品番
- C：耐荷重
- D：製造工場の情報
- E：シリアルナンバー
- F：EANコード
- G：使用前に取扱説明書の読了が必要な製品の表示
- H：CEマーク



その他の注意事項に関しては、ユーザー向の取扱説明書をご参照ください。

4章 納品時の注意

4.1 納品時の状態

車いす本体は半完成状態で梱包されています。場合によってはリヤホイール（大車輪）も外されています。梱包内には、下記のものが含まれています。

- ・車いす本体
- ・リヤホイール
- ・フットサポート
- ・取扱説明書（利用者用）、取扱説明書（取扱販売店用テクニカルマニュアル）



- 利用者用の取扱説明書は、必ず利用者様に手渡ししてください。

4.2 オプション

オプションの種類や機能に関しては、利用者用の取扱説明書に記載されています。

4.3 収納

車いすは、乾燥した環境で保管してください。

保管や運搬に適した温度は、-10℃～40℃となります。

PUタイヤ（ノンパンクタイヤ）を装着している場合、長期保管の際にブレーキを掛けないで下さい。（タイヤが変形する恐れがあります。）



- タイヤは、洗剤や酸などと反応する化学物質を含んでいます。




5章 取扱の前に

5.1 必要な工具類

調整のために、下記の工具が必要となります。

- ・六角レンチ : 3mm / 4mm / 5mm
- ・レンチ (メガネ、またはオープンレンチ) : 10mm / 13mm / 19mm / 24mm / 27mm
- ・ソケットレンチ : 10mm / 13mm / 19mm
- ・プラスドライバー : #3
- ・トルクレンチ : 5Nm ~ 50Nm

5.2 組立




| | |
|--|---|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● 挟まれやすい箇所 指を挟むリスクがあります。 ⇒バックサポートを折りたたんだり広げたりするときは、指定の場所に手を添えてください。 |
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● リヤホイール (大車輪) の不適切な組付け ホイールの緩みにより、落車または転倒のリスクがあります。 ⇒調整等が終了するたびに、ホイールが適切に取り付けられていることを確認してください。 また、車軸がブラケットに完全に挿入されていることを確認してください。 |
|  アドバイス | <ul style="list-style-type: none">● 個々のパーツの重量に関しては、テクニカルデータの欄をご参照ください。 |

組立て手順

- 1) 両側のリヤホイールを本体のブラケットにはめてください。クイックリリースのボタンから指を離してホイールを引いたときに、ホイールが抜けないことを確認して下さい。
- 2) バックサポートを開き、プレート上の穴に固定ピンがしっかりはまっていることを確認して下さい。
- 3) サイドパネルを広げ、フレーム横の受けにはめてください。
- 4) 必要に応じて、カーフストラップ (付属) を取付けてください。
- 5) 車いすにクッションを載せてください。

6章 調整




6.1 調整の前に

| | |
|---|---|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none">● 不適切なセッティング 不適切なセッティングにより、転倒などのリスクのほか、ユーザーの座位姿勢に影響を与えます。 ⇒調整は、オットーボック社によりトレーニングを受けたスタッフのみが行ってください。 ⇒本取扱説明書に記載されていない調整は行わないでください。 ⇒調整は、適切な調整範囲の中で行ってください。許容範囲を超えた調整を行った場合、車いすの安定性が損なわれる場合があります。 ⇒試乗は介助者同伴で行ってください。 ⇒取扱説明書に指示のない限り、ユーザーが車いすに乗った状態では調整を行わないでください。 ⇒試乗の際には、ユーザーが転倒しないように注意してください。 ⇒ユーザーが乗車する前に、全てのボルトが確実に締められていることを確認して下さい。 ⇒製品をユーザーに届ける前に、安全装置が機能することを確認してください。 |
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● ボルトの締付が不十分な場合 指を挟む、車いすが壊れる、車いすが倒れる、ユーザーが転落する、などのリスクがあります。 ⇒車軸の位置が前過ぎると、平らなところでも車いすが転倒しやすくなります。 ⇒車いすの経験の少ないユーザーや、座面高さの前後さが大きい場合には、転倒防止装置をご使用ください。 ⇒大腿切断のユーザーに対しては、車軸を後方にセッティングしてください。車いすの安定性を高めることができます。 |
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● ナイロンナット（ゆるみ止めナット）の不適切な使用 ユーザーの転落や転倒のリスクがあります。 ⇒ナイロンナットを緩めた場合は、新しいナイロンナットに交換してください。 |

車いすの微調整やセッティングが、ユーザー自身の身体的およびメンタル的な状況に適合するように、これらの作業はユーザー同席で行ってください。

調整の前に、全てのパーツや車いす本体をクリーニングしてください。

6.2 車軸位置の調整

| | |
|--|---|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● 車軸の不適切な調整 落車または転倒のリスクがあります。 ⇒機能性や、転倒に対する安定性を考慮した車軸のセッティングを行ってください。極端なセッティングを避けてください。 |
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">● ホイールベースの不適切な調整 落車または転倒のリスクがあります。 ⇒車軸の位置が前過ぎると、平らなところでも車いすが転倒しやすくなります。 ⇒車いすの経験の少ないユーザーや、座面高さの前後さが大きい場合には、転倒防止装置をご使用ください。 ⇒大腿切断のユーザーに対しては、車軸を後方にセッティングしてください。車いすの安定性を高めることができます。 |
|  アドバイス | <ul style="list-style-type: none">● 車軸の位置を変更すると、フロントキャスターの軸角度も変化します。フロントキャスターの軸角度が、地面に対して90°になるように調整をしてください。また、ブレーキ位置も調整が必要になります。 |

6.2.1 車軸の水平方向（前後）の調整

車軸位置は、フレーム上で車軸プレートをスライドさせることにより変更することができます。

6.2.1.1 車軸プレートの動かし方

車軸プレートの位置は、本体フレーム上で無段階に調整することができます。フレーム上には、目安となる9つのグリッド（点）が刻まれています。

1) リヤホイールを取り外します。

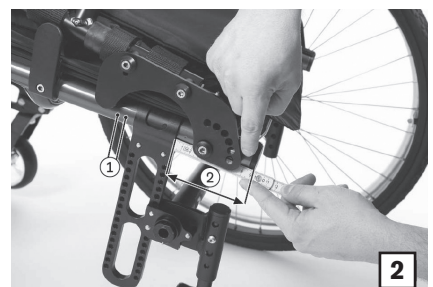
2) 車いす本体を上下にひっくり返して置きます。
(車いすが傷つかないようにしてください)


3) 車軸プレート内側にあるボルト（左右に各2本）を緩めます。
[写真1の①]

4) 車軸プレートを希望の位置に動かします。[写真1の②]
→フレーム上のグリッド[写真2の①]を大まかな目安として使用してください。
→より正確な調整のため、本体フレームの後端と車軸プレートの後端の距離をスケールで測定してください。

5) 左右の車軸プレートの位置が同じであることを確認してください。
左右の車軸プレートの位置は、正確に同じになるようにセットしてください。

6) ボルトを締めなおします。[写真1の①]規定トルクは10Nmです。



| | |
|--|---|
|  アドバイス | ● これらの調節を行った後に、キャスト角度、およびブレーキ位置を確認してください。必要に応じてこれらを再調整してください。 |
|--|---|

6.2.2 車軸の上下位置と座面角度の調整

6.2.2.1 車軸の上下位置の調整

車軸プレートには「ロング」と「ショート」の2種類があり、ロングは上下15段階、ショートは上下10段階の高さ調整が可能です。

1) リヤホイールを取り外します。

2) 車いす本体を上下にひっくり返して置きます。
(フレームの傷や、ブレーキ等の突起物にご注意ください。)

3) 車軸プレート上にある2つのボルトを緩めて取り外します。
[写真3の①]

4) 車軸シャフトを希望の高さに合わせます。[写真4の②]
左右の高さは必ず同じになるようにしてください。



5) ボルトを締め付けます。[写真3の①]

規定トルクは 10Nm です。

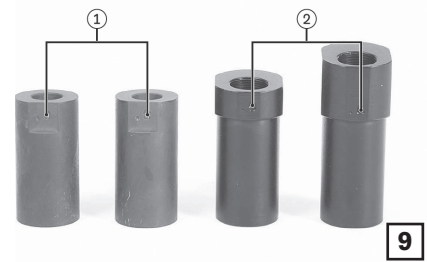


アドバイス

● 車軸の高さを調整した後は、キャスト角度とブレーキのセッティングを確認し、必要に応じて再調整してください。

6.2.3 車軸の左右位置（幅）調整

0°用、および3°用のキャンバーアダプター[写真9の①]は、スライドで左右位置の調整ができます。6°用および9°用のキャンバーアダプター[写真9の②]はアダプター部のボルト部を回すことにより調整ができます。



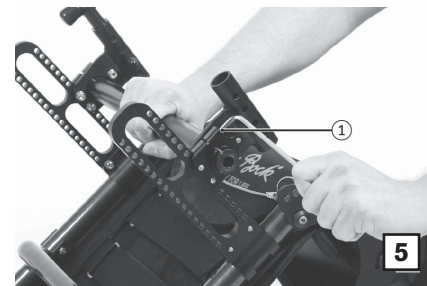
6.2.3.1 0°用、および3°用のキャンバーアダプター

1) リヤホイールを取り外します。

2) 車いす本体を上下にひっくり返して置きます。

(フレームの傷や、ブレーキ等の突起物にご注意ください。)

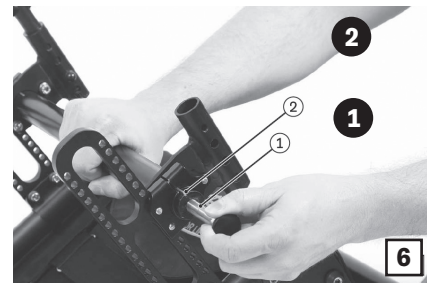
3) アダプタークランプのボルトを緩めます。[写真5の①]



注意

⇒この調整は、片側ずつ行ってください。
⇒左右の車軸ブラケットが、同じセッティングになるように調整してください。

4) リヤホイールのクイックリリースをキャンバーアダプターに差込んで引っ張ると、キャンバーアダプターを取り外すことができます。[写真6の①]



5) キャンバーアダプターを希望の位置に調整します。

[写真6の②]

→キャンバーアダプターを外側に出しすぎないでください。

アダプタークランプ全体が、キャンバーアダプターにかかるようにしてください。

→調整後は左右の位置が等しくなるように計測して確認してください。[写真7]



6) ボルトを締め、キャンバーアダプターを軽く固定します。

7) 反対側のキャンバーアダプターも同様に調整します。左右のキャンバーアダプターの位置が同じになっていることを確認します。

8) リヤホイールを取り付けます。

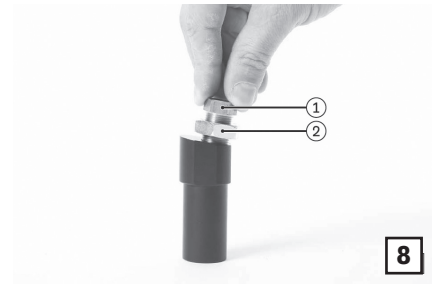
9) 車軸シャフトの角度を調整します（別項参照）

10) アダプタークランプのボルトを締め付けます。[写真5の①]

規定トルクは 10Nm です。

6.2.3.2 6°用、および9°用のキャンバーアダプター

- 1) リヤホイールを取り外します。
- 2) 車いす本体を上下にひっくり返して置きます。
(フレームの傷や、ブレーキ等の突起物にご注意ください。)
- 3) キャンバーアダプター用の固定ナットを緩めます。
[写真8の②]
- 4) キャンバーアダプターを希望の位置に調整します。
[写真8の①]
必要に応じてリヤホイールを装着し、リヤホイールの回転に問題がないか確認してください。
- 5) キャンバーアダプターのナットを軽く固定します。
- 6) 反対側のキャンバーアダプターも同様に調整します。
- 7) リヤホイールを取り付けます。
- 8) 車軸シャフトの角度を調整します。(別項参照)
- 9) キャンバーアダプターのナットを締めます。
規定トルクは50Nmです。

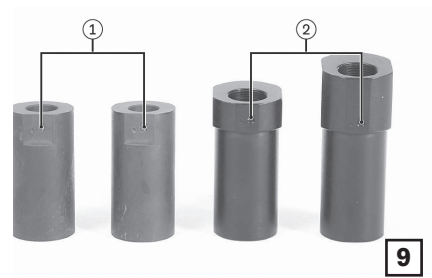


6.2.4 キャンバー角度の変更

リヤホイールのキャンバー角度は、キャンバーアダプターを交換することにより変更できます。

6.2.4.1 キャンバーアダプターの変更

ベントスには、0°/3° [写真9の①]、6°/9° [写真9の②]の4種類のキャンバーアダプターがあります。



- 1) リヤホイールを取り外します。
- 2) 車いす本体を上下にひっくり返して置きます。
(フレームの傷や、ブレーキ等の突起物にご注意ください。)
- 3) アダプタークランプのボルトを緩めます。 [写真11の①]
→キャンバーアダプターを外側に出しすぎないでください。
アダプタークランプ全体が、キャンバーアダプターにかかるようにしてください。
→調整後は左右の位置が等しくなるように計測して確認してください。 [写真7]



4) キャンバーアダプターを取り外します。

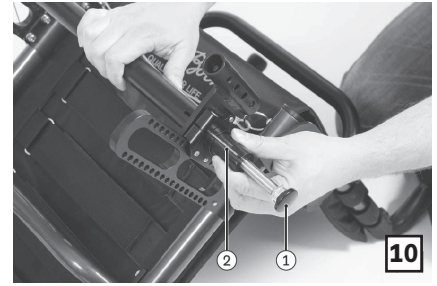
→ 0° 用 / 3° 用のキャンバーアダプターの場合

リヤホイールのクイックリリースをキャンバーアダプターに差込んで引っ張ると、キャンバーアダプターを取り外すことができます。[写真10の①、②]

→ 6° 用 / 9° 用のキャンバーアダプターの場合

キャンバーアダプターは手で取り外すことができます。

[写真12の②]



5) 新しいキャンバーアダプターをセットします。

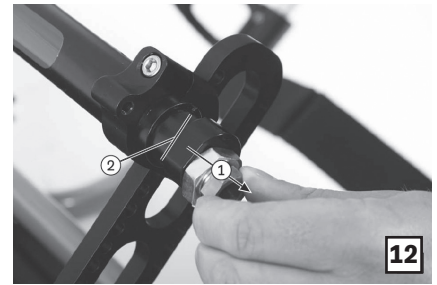
→ 0° 用 / 3° 用のキャンバーアダプターの場合

アダプタークランプ全体が、キャンバーアダプターにかかるようにしてください。

調整後は左右の位置が等しくなるように計測して確認してください。[写真7]

→ 6° 用 / 9° 用のキャンバーアダプターの場合

キャンバーアダプターが、アダプタークランプに当たって止まるまで押し込んでください。



6) アダプタークランプのボルトを軽く締めます。

7) 反対側も同じように交換します。左右のキャンバーアダプターの位置が同じになっていることを確認します。

8) リヤホイールを取り付けます。




9) 車軸シャフトの角度を調整します (6.2.5 参照)。

10) アダプタークランプのナットを締めます。[写真11の①]

規定トルクは 10Nm です。



6.2.5 車軸シャフトの角度調整

| | |
|--|--|
|  アドバイス | <ul style="list-style-type: none">● この調整は、下記の調整を行った後に必ず行ってください。<ul style="list-style-type: none">⇒ 車軸の左右位置 (幅) の調整⇒ キャンバーアダプターの交換 |
|  アドバイス | <ul style="list-style-type: none">● 車軸シャフトの角度は、下記の調整を行った後に必ず確認し、必要であれば調整を行ってください。<ul style="list-style-type: none">⇒ 車軸の前後位置調整⇒ 車軸の高さ調整 |
|  アドバイス | <ul style="list-style-type: none">● 車軸シャフトの角度調整を行うときは、車軸の左右位置 (幅) が左右対称になっていることを確認してください。キャンバーアダプターの外側とアダプタークランプの外側の距離を、左右それぞれ計測することで対称性を確認できます。 |

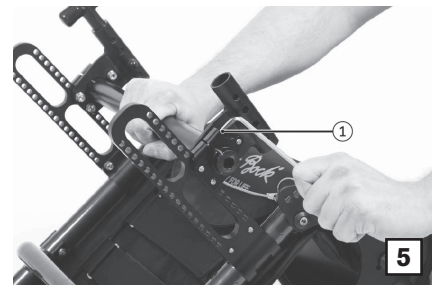


アドバイス

- 車軸シャフトの角度調整を行った際は、必ずキャスト角度の確認も行ってください。

アダプタークランプのボルトを、車軸シャフトとキャンバーアダプターが動かせる程度に軽く緩めてください。

- 1) 車いす本体を平らで固い面においてください。
- 2) クイックリリースのボタンを押して、リヤホイールを少し外側にずらしませ (取り外さないでください)。
- 3) キャンバーアダプターの上に、水準器をセットします。
[写真13]
- 4) 水準器の気泡が中央に来るように、キャンバーアダプターをゆっくり回転させます。
- 5) アダプタークランプのボルトを締め付けます。[写真5の①]
規定トルクは 10Nm です。



6.2.6 車軸延長プレート使用時の調整

ベントスは、オプションで車軸延長プレートを取り付けることができます。車軸延長プレートは、ハンドバイクの使用時や、後方への安定性 (転倒防止) に対して効果があります。

ベントス本体注文時に車軸延長プレートを選択した場合は、組みつけられた状態で納品されます。車軸延長プレートを使用した場合も、各部調整方法は通常の車軸のときと同じです。

車軸の前後調整 → 6.2.1 を参照

車軸の高さ調整 → 6.2.2 を参照

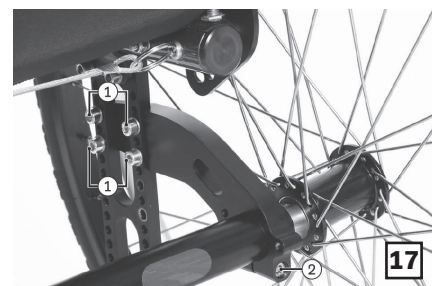
→ 車軸延長プレートの場合は、車軸プレート上で片側4本のボルトを緩める必要があります。[写真17の①]

車軸の左右位置 (幅) の調整 → 6.2.3 を参照

→ キャンバー角が 0° / 3° の場合は、車軸延長プレート上のアダプタークランプのボルトを緩めてください。[写真17の②]

キャンバー角度の調整 (変更) → 6.2.4.1 を参照

→ キャンバーアダプターを交換する際は、車軸延長プレート上のアダプタークランプのボルトを緩めてください。[写真17の②]



NOTE

- 車軸延長プレートで、2本車軸を使用する場合は、前後2本の車軸のキャンバーの組み合わせは、下記のみとなります。
⇒ 0° / 3° の組み合わせ
⇒ 6° / 9° の組み合わせ (前側を 9° にした場合、後側は 0° になります)

ブレーキの調整 → 6.4 を参照

→ 車軸延長プレートを使用の際、車軸を極端に後方にセットする場合は、アップグレードタイプのブレーキが必要となる場合があります。また、ブレーキ用クランプを、サイドパネルホルダーより後方にセットする場合があります。[写真16の②]

⚠ 注意

- 転落・転倒のリスクがあります。
車軸延長プレートで2本車軸を使用の場合、後方の車軸にリヤホイールをセットした場合は、ブレーキを使用することができません。
(例：ハンドバイクアダプターをセットする前)



サイドパネルの操作方法

車軸延長プレートが組みつけられたベンタスに利用者が移乗する時、サイドパネルは下記のように動かすことができます。

→ 標準サイドパネルは、後方に跳ね上げることができます。
[写真18]



→ クローシングプロテクターは、いったん後ろに下げてから、
[写真19]



ホイールにあたるまで下げることができます。
[写真20]



6.3 キャスターの調整

6.3.1 キャスター角度の調整（標準フォークの場合）

リヤホイールの各位置を調整した後は、キャスター角度を調整する必要があります。

車いすの操作性を最適な状態に保つために、キャスターの回旋軸は、地面に対して垂直である必要があります。この回旋軸の角度は、無段階で調整することができます。

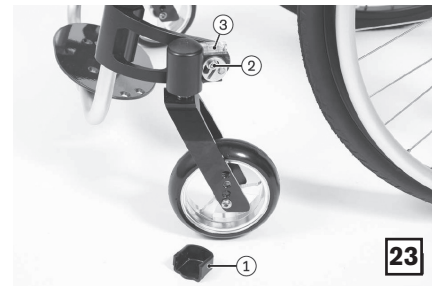
1) フレーム内側のプラスチックカバーを外します。[写真21]



2) フレーム内側の後方ボルト [写真22の②] を軽く緩めます。
必要に応じて、前方のボルト [写真22の①] も緩めます。



- 3) 保護カバーを外します。[写真23の①]
- 4) 調整ディスクのボルト [写真23の②] を少し緩めます。
- 5) キャスター軸受上に水準器を置きます。[写真23の③]



- 6) 大き目のマイナスドライバーを使って調整ディスクを回転させ、キャスター軸受の角度を調整します。[写真24] 水準器の気泡が真ん中になるようにセットしてください。
- 7) 調整ディスクのボルトを締め付けます。[写真23の②] 規定トルクは 10Nm です。



- 8) フレーム内側のボルトを締め付けます。[写真22の①、②] 規定トルクは 23Nm です。
- 9) プラスチックカバー [写真21]、および保護カバー [写真23の①] を取り付けます。
- 10) 上記作業を、左右のキャスターにて行います。

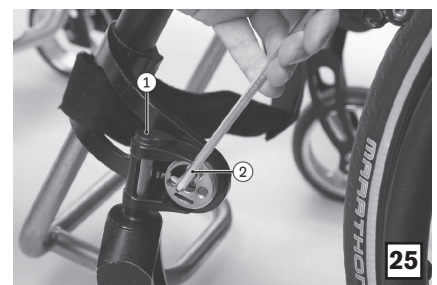


6.3.2 キャスター角度の調整 (デザインフォーク/フロッグレッグスの場合)

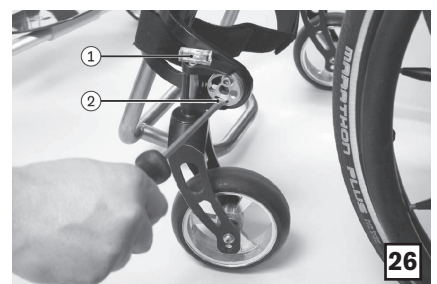
| | |
|------------------|--|
| アドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ● 基本的には、標準フォークの場合と同様です。また、デザインフォークとフロッグレッグスフォークの調整方法は同じです。 |
|------------------|--|



- 1) フレーム内側のプラスチックカバーを外します。
- 2) フレーム内側の後方ボルトを軽く緩めます。
- 3) 保護カバーを外し、キャスター回旋軸上の樹脂キャップ [写真25の①] も外します。
- 4) 調整ディスクのボルト [写真25の②] を少し緩めます。
- 5) キャスター軸受上に水準器を置きます。[写真26の①]



- 6) 大き目のマイナスドライバーを使って調整ディスクを回転させ、キャスター軸受の角度を調整します。[写真26の②] 水準器の気泡が真ん中になるようにセットしてください。

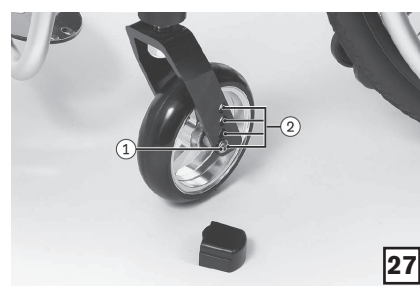


- 7) 調整ディスクのボルトを締め付けます。[写真25の②]
規定トルクは8Nmです。
- 8) フレーム内側のボルトを締め付けます。規定トルクは23Nmです。
- 9) 取り外したプラスチックカバー、保護カバーを取り付けます。
- 10) 上記作業を左右のキャストにて行います。

6.3.3 キャスター高さの調整

- 1) キャスターの左右にあるボルトを緩めて取り外します。
[写真27の①]
- 2) シャフトとスペーサー（2個）を取り外します。
- 3) キャスターホイールを取り外します。
- 4) フォークの希望の位置（穴）[写真27の②]に、シャフトと片側のスペーサーをセットします。
- 5) キャスターホイールを取り付けます。
- 6) 反対側のスペーサーをセットします。
- 7) シャフトをボルトで固定します。規定トルクは8Nmです。
→左右のキャストホイールは、キャストフォークの同じ高さの穴にセットしてください。

→前座高の調整を行った後は、車軸シャフトの角度とキャスト軸の角度を確認してください。必要に応じて、再調整してください。



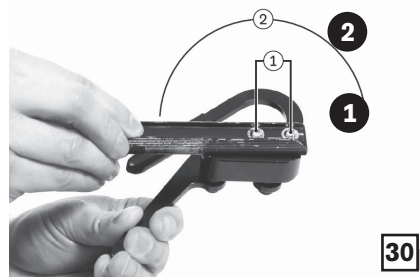
6.4 ブレーキの調整

⚠ 注意

- 不適切なブレーキの調整 事故や転落の恐れがあります。
⇒リヤホイールのタイヤの空気圧を適正にし、正しいブレーキのセッティングを行ってください。タイヤの適正空気圧は、タイヤ側面に記載されています。高圧タイヤの場合、最低適正空気圧は7気圧です。
⇒リヤホイールは純正のものを使用してください。直径方向への振れは1mm以下としてください。

リヤホイールの調整を行った後は、ブレーキの調整も必要になります。ベントスのブレーキには、「標準ブレーキ」「アップグレードブレーキ」「シザーブレーキ」の3種類ありますが、基本的な調整方法は同じです。

- 1) ブレーキを固定しているクランプのボルトを緩めます。
[写真28の①]
- 2) ブレーキのステイを前後に動かして、[写真28の②] 任意の位置で固定します。[写真28の③]
ブレーキを解除した状態で、ブレーキのパッドとタイヤとの感覚が5mm以内となるようにセットしてください。[写真29]
※シザーブレーキ以外。
- 3) クランプのボルトを締め付けます。規定トルクは10Nmです。
→調整が終了したら、左右のブレーキが同じ強さでかかることを確認してください。



ブレーキ調整に関する特記事項

必要に応じて、ブレーキのステーを取り外し、前後反対に取り付けることも可能です。これにより調整範囲がさらに広がります。

- 1) ステーのボルトを取り外します。
[写真30の① 写真はシザーブレーキの場合]
- 2) ブレーキステーを前後反対に取り付けます。[写真30の②]
- 3) ボルトを再度締め付けて固定します。



シザーブレーキに関する特記事項

- * ブレーキを取り付ける際には、ブレーキの動きがフレームに干渉されないようにしてください。[写真32の①、および写真33の①]
- * ブレーキを開いたときに、フレームにあたらないようにしてください。
- * 使用方法に関しては、ご利用者様向けの取扱説明書をご参照ください。




6.5 バックサポートの調整

6.5.1 バックサポートの高さ調整

ベントスでは、バックサポートの高さは調整できません。
バックサポートの高さを変更したい場合は、バックサポートフレームを交換する必要があります。

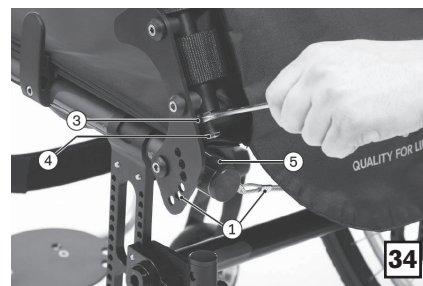
6.5.2 バックサポートの角度調整

| | |
|---|--|
|  注意 | <p>● 転倒防止に対する不適切な対応整 事故や転落の恐れがあります。 ⇒車軸を前方に設定したり、バックサポートを後方に大きく倒す場合は、利用者の経験（車いす操作のスキル）に応じて、転倒防止装置を左右両方にセットすることをお勧めします。</p> |
|---|--|

利用者の希望に応じて、65°～105°の間でバックサポート角度を調整することができます。

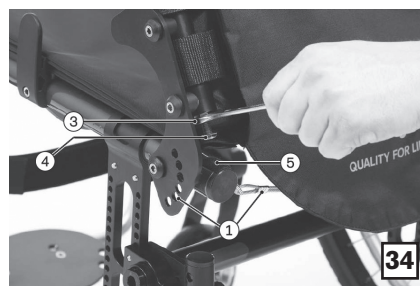
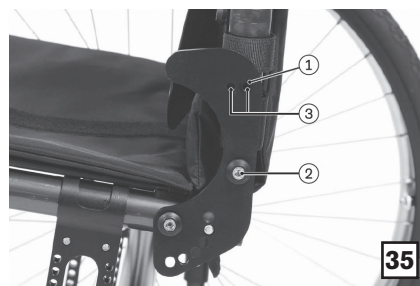
調整方法（20°単位）

- 1) バックサポート下のケーブルを引いて、バックサポートのロックを解除します。[写真34の①]
- 2) 固定用ナットを緩めます。[写真34の③]
- 3) 固定用ボルトを手で回して締めます。[写真34の④]
- 4) ケーブルを引いて、希望の位置で再度ロックします。
- 5) フレーム上のベルクロファスナーに触れるまで、ボルト [写真34の④] をまわします。
- 6) 固定用ナット [写真34の③] を締め付けます。
この際ボルトが回転しないようにスパナで抑えておきます。



調整方法（20°単位）

- 1) 上側の固定用ボルトを外します。[写真35の①]
- 2) 下側のボルトを軽く緩めます。[写真35の②]
- 3) 固定用ナットを緩めます。[写真34の③]
- 4) 固定用ボルトを手で回して締めます。[写真34の④]
- 5) 両側のバックサポートプレートの位置を変更します。
[写真35の③]
- 6) 固定ボルトを再度締め付けます。[写真35の①、②]
- 7) フレーム上のベルクロファスナーに触れるまで、ボルト[写真34の④]をまわします。
- 8) 固定用ナット[写真34の③]を締め付けます。
この際ボルトが回転しないようにスパナで抑えておきます。



6.5.3 プッシュハンドルの調整

標準プッシュハンドル[写真36]、およびフォールディングプッシュハンドルは、高さ調整ができません。
高さ調整式プッシュハンドル[写真37]のみ、高さを調整することが可能です。

- 1) クランプレバーを緩めます。
 - 2) 希望の高さにプッシュハンドルをセットします。
 - 3) クランプレバーを再度締め付けます。
- ※左右のプッシュハンドルは同じ高さにセットしてください。



6.6 バックサポートカバー / シートカバーの調整

6.6.1 バックサポートカバーの調整



アドバイス

- バックサポートの張りを適切に調整すると、利用者の快適性が向上したり、二次障害や局所的な圧力の集中のリスクを低減することができます。 極端に張りを強めないようにしてください。
- 利用者の骨盤が、可能な限り車いすの後方にセットされるようにしてください。

バックサポートは、利用者のニーズに合わせて部分ごとに調整することができます。

- 1) バックサポートカバーを取り外します。
- 2) 希望の位置のストラップを緩め、張りを調節します。
- 3) 調整が終了したら、バックサポートカバーを再度かぶせ、ベルクロファスナーで固定します。
 - バックサポートの折り目をストラップの一番上に合わせてセットします。
 - バックサポート後方のフラップを、しっかりと下側に引っ張ります。
 - バックサポート前方のフラップを、シート上のベルクロに固定します。

6.6.2 シートカバーの調整

標準シートカバー

標準シートカバーは、初期段階では調整する必要はありません。長期間の仕様において、カバーにたるみが出た場合は、交換をお勧めします。

張り調整シートカバー

- 1) シートクッションを取り外します。
- 2) シートパッドを取り外します（図42）。
- 3) バックサポートの前方フラップを取り外します（図38の②）
- 4) 希望の位置のストラップを緩め、張りを調整します（図43）。
- 5) バックサポートの前方フラップをシートに取り付けます。
- 6) シートパッド、およびクッションを取り付けます。



6.7 フットサポートの調整

6.7.1 フットサポートの高さ調整

フットサポートの高さは、利用者の下腿長とクッションの厚みによって決まります。

一枚式フットサポート / パイプ式フットサポートの場合

1) フロントフレーム後側にある4本のイモネジを軽く緩めます。

[図44の①]

2) フットパネルの位置を調整します（無段階調整）。フットパネルのパイプが、フレームパイプの中に最低60mm以上挿入されているようにしてください。

3) イモネジを固定します。規定トルクは7Nmです。



短下腿長用フットサポートの場合

< 高さ調整 >

1) 調整プレートの下側のボルトを緩めます。[図45の①]

2) フットプレートをユニットごと取り外します。[図45の②]

3) 調整プレートの上側のボルトを緩めます。[図45の③]

4) フットプレートを希望の穴に取り付けます。[図45の④]

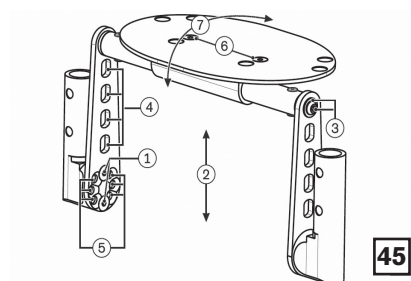
5) フットプレートの位置を固定します。[図45の③]

規定トルクは7Nmです。

6) フットプレートのユニットを元通り取り付けます。

7) 調整プレート下側のボルトを締め付けます。[図45の①]

規定トルクは5Nmです。



< 前後位置調整 >

1) 調整プレートの下側のボルトを緩めて取り外します。

[図45の①]

2) 調整プレートを希望の位置に回転させます。[図45の⑤]

3) 調整プレートを取り付けます。[図45の①]

規定トルクは5Nmです。

※前後位置の調整を行った後は、フットプレートの角度調整も必要です。

6.7.2 フットプレートの角度調整

利用者の足関節を適切・快適なポジションでサポートするため、フットプレートの角度を調整します。

一枚式フットプレートの場合

1) フットパネル上面にあるボルト2本を緩めます（図46の①）。

2) フットプレートを希望の角度に回転させます（図46の②）。

3) ボルトを再度締めます。規定トルクは10Nmです。



短下腿長用フットプレートの場合

- 1) フットパネル上面にあるボルト2本を緩めます (図45の⑥)。
- 2) フットプレートを希望の角度に回転させます (図45の⑦)。
- 3) ボルトを再度締めます。規定トルクは 10Nm です。



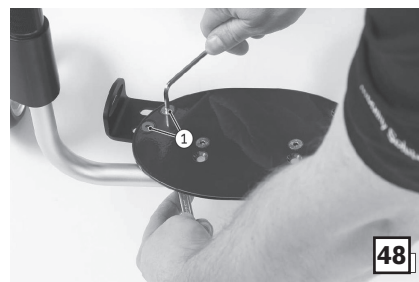
パイプ式フットプレートの場合 [図47]

角度調整はできません。

6.7.3 サイドストッパーの取付・調整

フットプレート両端の穴を利用して、サイドストッパーを取り付けることができます。

- 1) フットプレート上側からボルトを差込み、サイドストッパーをフットプレート下側にセットします。 [図48の①]



- 2) 固定する前に、サイドストッパーを希望の位置にセットします。 [図49]



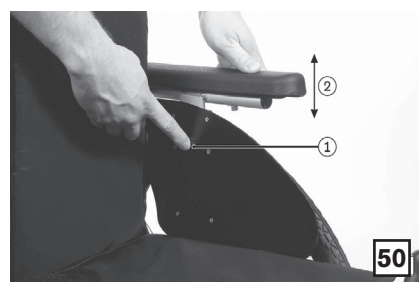
- 3) ボルトを締め付けて、サイドストッパーを固定します。

6.8 サイドパネルの調整

6.8.1 アームサポート付サイドパネルの調整

< 高さ調整 >

- 1) サイドパネル内側のボタンを押します。 [図50の①]
- 2) ボタンを押しながら、アームパッドを希望の位置にセットします。 [図50の②]



- 3) ボタンを離します。アームパッドの位置が固定されたことを確認してください。

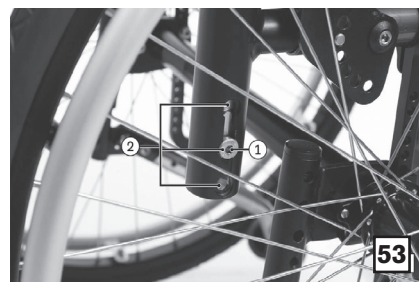
< アームパッドの前後調整 >

- 1) アームパッドの取り付けボルトを緩めて取り外します。 [図51の①]
- 2) アームパッドを外し、希望の位置にセットします。 [図51の②]
- 3) ボルトを再度締め付けて固定します。



6.8.2 パイプ式アームサポートの調整

- 1) ブラケット上のボルトを緩めます。 [図53の①]
- 2) ブラケット上のボルトを希望の位置にセットします。 [図53の②]
- 3) ボルトを締めなおします。



6.9 転倒防止装置／ティップアシストの取付・調整

⚠ 注意

● 転倒防止装置の不適切な調整または欠落

後方転倒のリスクがあります。

⇒転倒防止装置が適切に取付・調整されていることを確認してください。

⇒車いすの設定や、車軸位置・バックサポート角度による重心位置の変化、および利用者の経験値によっては、転倒防止装置は必需品となります。

⇒車軸を前方に設定したり、バックサポートを後方に大きく倒す場合は、利用者の経験（車いす操作のスキル）に応じて、転倒防止装置を左右両方にセットすることをお勧めします。

6.9.1 アクセサリマウントの取付

転倒防止装置やティップアシストの取り付けには、専用のアクセサリマウントを使用します。

本体ご注文時にこれらのオプションを選択された場合は、工場出荷時に組みつけられていますが、後から組み付けが必要な場合もあります。

6.9.2 転倒防止装置の取付

本体ご注文時にこれらのオプションを選択された場合は、工場出荷時に組みつけられていますが、後から組み付けが必要な場合もあります。

6.9.3 転倒防止装置の調整

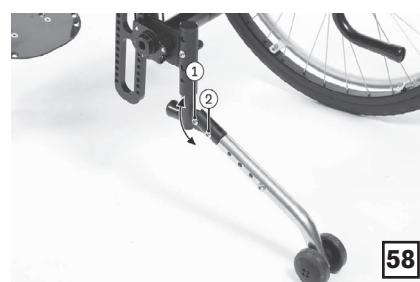
本体ご注文時にこれらのオプションを選択された場合は、工場出荷時に組みつけられていますが、後から組み付けが必要な場合もあります。

転倒防止装置の長さ調整

- 1) 転倒防止装置アームのボルトを取り外します。[図57の①]
- 2) アームの長さを調整します。
- 3) 再度ボルトを取り付けます。アーム先端のキャスターがリヤホイールの後端よりも後方に突き出しているようにしてください。[図56]

転倒防止装置の角度調整

- 1) 角度調整部のボルトを取り外します。[図58の①]
- 2) もう1本のボルトを緩めます。[図58の②]
- 3) 転倒防止装置の角度を調整します。
- 4) ボルトを再度固定します。アーム先端のキャスターと地面とのクリアランスは、約5cm以内としてください。



アクセサリマウントの角度調整

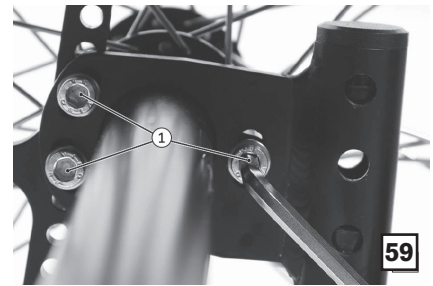
1) アクセサリマウント内側のボルト3本を取り外します。

[図59の①]

2) アクセサリマウントの角度を調整します。[図60]

10°単位で3段階の調整が可能です。

3) ボルトを再度締め付けます。規定トルクは10Nmです。アーム先端のキャスターと地面とのクリアランスは、約5cm以内としてください。



6.9.4 ティップアシストの取付・調整

ティップアシストは、アクセサリマウントの規定の位置に取り付けることができます。

1) ティップアシストのロックボタンを押してください。

[図61の②]

2) ティップアシストをアクセサリマウントの下側から差し込みます。

[図61の①]

3) ボタンがロックされたことを確認してください。



6.10 シートベルトの取付

本体の仕様やセッティング状況に応じて、シートベルトはバックサポート角度調整プレート[図63の①]、または車軸プレートを使用していない穴[図63の②]に取り付けることができます。

1) 同梱のボルトで、シートベルトを上記の取付位置に取り付けます。

2) ボルトを締め付けて固定します。規定トルクは7Nmです。



7章 納品時の注意点

7.1 最終確認

利用者に車いすをお渡しする前に、最終確認を行ってください。

- ご注文いただいたオプションは、全て取り付けられているか？
- リヤホイールは正しい位置に取り付けられているか？
- タイヤの空気圧は適正か？

※適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。高圧タイヤの場合、最低空気圧は7barとしてください。

- 車軸ブラケットは、車軸プレート上に適切なトルクで取り付けられているか？
- リヤホイールはスムーズに回転するか？
- ブレーキは適切に調整されているか？
- キャスター角度は適正に（地面に対して垂直に）調整されているか？
- 転倒防止装置は適正に取り付けられているか？

7.2 納品時の運搬について

納品時に車いすを運搬する際は、折りたたんだ状態で、メーカーから到着時の箱に梱包してください。

7.3 引渡し

車いすを安全に引き渡すために、下記の手順を実施してください。

- ・利用者を車いすに乗車させて、適合性を確認してください。特に、医学的見地からの各種設定について注意してください。
- ・利用者本人と、可能であれば介助者に対して、安全に対する注意事項を説明してください。同封の「利用者用取扱説明書」をご使用下さい。
- ・車いすと一緒に、「利用者用取扱説明書」を納品してください。

8章 メンテナンス / 修理

少なくとも 12 ヶ月ごとに、メンテナンス（各部の機能性・安全性の確認）を行うことを推奨します。洗淨 / 消毒、およびメンテナンス / 修理に関する情報に関しては、「利用者用取扱説明書」にも記載してあります。



アドバイス

- 適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。リヤホイールに関しては、最低 3.5 気圧の空気圧を充填してください。

9章 購入後の取扱いについて

9.1 廃棄

磨り減った、または損傷した部品は交換、撤去してください。車いす（各種パーツを含む）を廃棄する場合には、廃棄の際は、地域の廃棄基準に従い廃棄してください。

9.2 再利用 / 長期間の使用について



注意

● 不適切な利用による危険 シートユニットなど直接肌に触れる部分は、製品の再利用の際に、次に利用者される方に、機能上あるいは衛生上の危険を引き起こす可能性があります。再利用の際には、必要に応じてこれらの部品を交換してください。



注意

● シートカバーの劣化
機能面および衛生面でのリスクがあります。
→車いすを再利用する場合は、必ずシートカバーを交換してください。

この製品は、再利用（リユース）が可能な製品です。

一般的な中古車や中古製品のように、リユースは製品に対する負荷を高めることとなります。製品の耐用年数内であっても、利用者への危険性を増大するような設定や仕様の変更は行わないで下さい。

現状の技術面や市場の状況より、適切なメンテナンス・修理を行った場合の本製品の耐用年数は4年を目安としています。

この耐用年数の中に、修理期間や未使用の期間は含まれて居ません。また、適切なメンテナンスや修理を実施した場合、この耐用年数を超えても安全に使用できる可能性があります。

製品の再利用の前に、まず、必ず洗浄 / 消毒を行ってください。それから、メーカー指定の販売店によって、製品のコンディションの確認を行い、消耗・損傷部分の確認を行ってください。消耗または損傷を受けた製品は、新しい利用者が再利用する前に、必ず交換を行ってください。

交換部品に関する詳細な情報は、メーカーにお問合せ下さい。

10章 メーカー責任および CE 整合性

10.1 メーカー責任

メーカー保証は、製品が適切な状況で、適切な目的に応じて使用された場合にのみ適応されます。また、取扱説明書に準じたメンテナンスを行うことを推奨します。

メーカーが認定していない部品や加工により生じた事故・破損に関して、メーカーはその責任を負いません。修理は、メーカーが認定した販売店でのみ行ってください。

10.2 CE 整合性

本製品は欧州医療機器に関するガイドライン 93/42/EEC の要件を満たし、ガイドラインの付表 IX の分類基準により、医療機器クラス I に分類されています。オットーボック社は、ガイドラインの付表 VII に則り、本製品が CE 規格に適合していることを保証いたします。

(注) 但し、日本においては、本製品は医療機器の分野には分類されていません。

サービスについて

オットーボック製品のサービスや修理は、販売店によって行ってください。適合などに不具合等がある際にも販売店に問い合わせてください。

オットーボック社取扱店

掲載内容の無断使用禁止

掲載されている内容、文章、画像については、無断で使用もしくは転載することを禁止します。

オットーボック・ジャパン株式会社

〒105-0012 東京都港区芝大門1-9-9 野村不動産芝大門ビル4F

TEL. 03-6403-1061(代表) FAX. 03-6435-8082

www.ottobock.com/ja-jp/mobility